

素材の良さを 引き出す子育て

NPO 法人ファザーリング・ジャパン 関西

洋食バイズハート代表 大下 最弘さん



1歳を迎えられる幸せ

私は6人の子を持つ父親です。上の3人はすでに成人しており、少し空いて中学生が3人。正直、上の3人の子育ては、妻に任せきりでした。妻も、私に対して特に期待もしていなかったようで、求められることもなく、子ども達がすくすく育っていく様子を当たり前のごととして眺めていました。

ところがある時、家族旅行中に生後9ヶ月だった4人目の子が体調を崩したのです。旅先の町医者の診断では風邪とのことだったので、別段気に掛けることもなく宿へ戻ったのですが、あまりにぐったりとしているので、大きな病院で診ていただくことにしました。すると、髄膜炎との診断。命に関わる状態でした。「1歳を迎えられないかもしれない…」その時初めて、懸命に生きる小さな命のかけがえのなさに愕然としました。それから少し、子どもを見る目が変わったような気がします。でも、どう関わればいいのかは、分からないままでした。

「できた!」の反応に目からウロコ

子どもとの関わり方を教えてくれたのは、他ならぬ子どもでした。8人家族ともなると、外食をするのもなかなかの大仕事です。実は私は、洋食屋を営む料理人で、ある時、「わざわざ他の店で食べなくても、自分の店で食べればいい。準備は、家族にも手伝ってもらおう」と思いつきました。

その日も店で食事をしようと、5歳になる息子に、とんかつの衣付けをやらせていたの時のことです。手をパン粉だらけにしながら悪戦苦闘している息子に「よう見ろよ。指3本で、こうやってつけるんやで」と、ちょっとしたコツを教えました。息子は、言われた通りに上手に衣をつけると、振り向き、手のひらを広げて見せながら言いました。「できた!」。私はその満面の笑顔に、心を揺さぶられました。私たちにとっては当たり前のごとでも、子どもにとって新たに何かできるようになることは、こんなに嬉しいことで、その一つ一つが成長なのだと思わされたのです。後に、ある方から「それって、モンテッソーリ教育ですよ」と言われ調べたところ、

子どものポテンシャルは無限で、ゆっくりと丁寧に教えればどんどんできるようになるということを知りました。それを機に、『ゆっくり教える→やらせてみる→できる』の繰り返し就是我的喜びとなりました。

子どもをよく観察してアプローチする

ぜひ、この喜びを他のお父さんにも感じて欲しいと思うのですが、日々仕事に追われるお父さんが実践するには少々コツが要ります。まずは、月に1度でいいので、時間をたっぷり取ることに。この日と決めたらその日は夕食に向けて、昼から子どもと一緒に買い物に行き、急かさず子どものペースで準備をします。その間、ママには美容院に行くなどしてもらいましょう。次に、何か1つ今日のテーマを決め、子どもに伝え、やらせてみます。できたら一緒に喜びましょう。できなくても焦ってはいけません。客観的にその子を観察し、どうアプローチすればできるようになるのかを、試行錯誤する気持ちで向き合えば、楽しくなるはず。ここで、もう一つのコツ。それは、メニューを変えないこと。ハンバーグなら毎月ハンバーグを何年も作り続けます。成長期の子どもは同じことを繰り返しても飽きたりしません。お父さんにとっては定点観察のようなもの。写真を撮っておけば、成長の経緯をみることができます。

私は、この視点が身につくことで以降、子どもに限らず人に対してイラつくことが減りました。料理に例えるなら人は素材。どうアプローチすれば、その素材の良さを引き出せるのかという視点で向き合くと、人間関係のストレスは激減します。そのことを子どもに教わりました。オススメです。ぜひ、お試しください。

こづれ食堂「hug cook」毎月第2土曜日開催!

大下さんの洋食店「バイズハート」では、こづれで参加できる料理ワークショップ「hug cook」を開催しています。作ったり、食べたりしながら、子どもとの時間を楽しもう!

バイズハート 吹田市垂水町1丁目40-5
お問い合わせ 06-6387-3965